

4 - 8 1962 年三宅島噴火前後の地震活動と 2000 年三宅島近海および新島・神津島近海の地震活動の比較

Seismic activity accompanied with the 1962 eruption of Miyakejima and seismic activity around Miyakejima, Niijima and Kozushima in 2000

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division, Japan Meteorological Agency

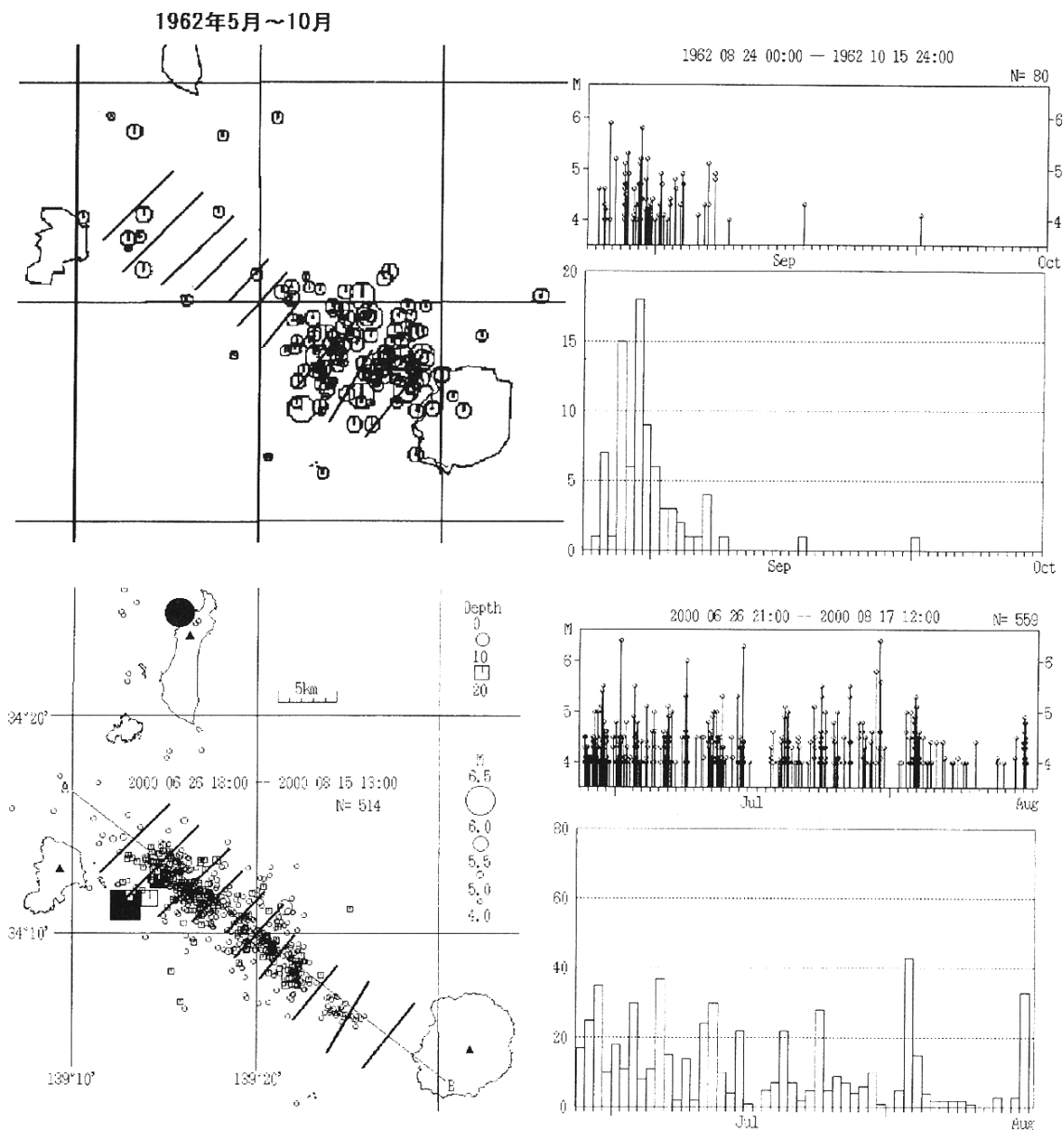
1962 年 8 月の三宅島の噴火に先立って 5 月に三宅島北西沖で M 5 クラスの地震を含む活動があり、さらに噴火が終息した 8 月下旬から同じ海域で地震活動が活発化した。M4 以上の地震で見ると、1962 年の活動域と 2000 年 6 月 26 日からの活動域と重なる部分は少なく、今回の活動の中心は 1962 年の活動の北西延長上に位置する。しかし、今回の活動は、規模や活動期間の長さ、活動域の広がりなど、1962 年の活動をはるかに上回っている。

今回の地震活動では震源が時間的、空間的に集中して発生し、空間的に見ると幾つかのブロックに分かれているように見える。そのブロックの境界を震央に重ねてみると、1962 年の活動でも同様の境界の存在が認められる。さらに 1962 年の活動でも神津島・新島近海にも地震活動が認められ、この地域は地震活動が誘発されやすい地域であることを示唆している。なお、1962 年の活動は観測点補正值などを用いて再調査された結果（浜田他，1985）である。この当時の観測網の偏りから、震央決定誤差は、北東-南西方向に大きくなる。この誤差を考慮すると地震の活動域は、今回の活動域と同じように、北西-南東の向きに配列していたものと推定される。

なお、今回の活動の震源は、観測点補正を施し、気象庁がルーチンで用いている速度構造とは異なるものを用いて、再計算した結果である。図中の■は 2000 年 7 月 1 日 M6.4 の地震、●は 2000 年 7 月 15 日の M6.3 の地震である。

参 考 文 献

浜田信生・田中康裕・西出則武:1962 年および 1983 年三宅島噴火に伴った地震活動の比較, 火山第 2 集(1985), 30, 147-160



MT 図、回数は三宅島南西沖の地震活動を含む

第 1 図 1962 年と 2000 年の活動の比較とブロック構造。

Fig.1 Comparison of seismic activities between 1962 and 2000, and block structure.